



「独自の研究見つけて」 ネオジム発明 佐川氏が激励

サムコ科学技術振興財団（京都市伏見区、辻理事長）は、2023年度（第7回）の薄膜技術に関する研究助成対象者7人に助成金を授与した（写真）。辻理事長は「応募のあった研究はどれも世界トップレベルの研究で、選考に苦労した」と助成対象者をたたえ、「将来、採択枠をさらに拡充し、海外研究者にも助成応募の機会を広げたい」とした。

サムコ科技振興財団 今年度助成金贈呈式

助成対象者は「結晶の対称性を制御した新規原子層膜の創生と新規物性開拓」を研究課題とする東北大学の菅原克明准教授ら7人で、助成金額は各200万円。同財団の研究助成は薄膜や表面、界面などを研究する45歳以下の若手研究者が対象。今回は91人から応募があり、定数を2人増やし7人選定した。

助成金贈呈式の前に、ネオジム磁石の発明者である大同特殊鋼顧問兼NDFEB（京都市西京区）社長の佐川真人氏と辻理事長が対談。佐川氏はネオジム磁石の開発経緯にふれ「ネオジム磁石はメインの研究テーマではなく独自のアンテナ研究で成功した。若い研究者にはアンテナ研究をきっかけに、新しいモノを作るような独自の研究を見つけてほしい」とした。（京都）